



みはら玉手箱



平成28年度講座の講演 終了

平成28年度に予定されていた以下の講座は、第4回まで無事終了しました。

回数	月 日	会場	内 容
第1回	5月29日(日)	A (注)	演題「沼田小早川氏について」 講師 三原市文化財協会会長 橋本敬一 先生
第2回	9月4日(日)	A	演題「毛利元就と小早川隆景」 講師 毛利博物館館長代理 柴原直樹 先生
第3回	10月9日(日)	A	演題「ひろしま最古の寺院 横見廃寺」 講師 東広島市出土文化財管理センター 所長 妹尾周三 先生
第4回	11月19日(土) 午 前	A	演題「山城は楽しい」 講師 城郭ライター 萩原さちこ 先生
	午 後	B	新高山城跡見学会 …天候不順の為中止
第5回	1月22日(日)	C	活動発表、閉講式

(注) 会場A;本郷生涯学習センター、会場B;新高山城跡、
会場C;ペアシティ三原西館

<講演要旨・概要>

1. 講演「沼田小早川氏について」

みはら玉手箱 第17号にて報告済み。

2. 講演「毛利元就と小早川隆景」



〔芝原直樹先生〕



〔妹尾周三先生〕

- 尼子氏の攻撃を封じる上では、毛利と竹原小早川の同盟が必要であった。
- そのため、大内氏の積極的な支援があって隆景は竹原小早川の養子となった。
- 次いで、竹原小早川家も継承したが、大内氏の滅亡により環境が変化した。
- 小早川家を優先する隆景の姿勢をただす必要性から、「三子教訓状」が作成された。ここから生まれた「三本の矢」の話は、後世の創作である。
- その元就の教えを忠実に守った隆景は、輝元の顔を立てつつ苦言を呈していた。
- 隆景は、常に有利な展開での戦争終結を模索していたと秀吉は評価している。

3. 講演「ひろしま最古の寺院 横見廃寺」

- 発掘調査結果から、本堂を切妻造・寄棟造・入母屋造で再現した場合の想像図をはじめ出土した奈良県山田寺式軒丸瓦等の紹介があった。
- 近隣にある梅木平古墳や御年代古墳の特徴にも触れられた。
- 安芸國の船木の伝説として、推古天皇26(617)年遣わされた河辺臣や白雉元(650)年に百済船を二隻造った話の紹介もあった。

4. 講演「山城はたのしい」

- 山城の特徴 … 近世城郭と異なり、権力誇示の要素(天守閣等)はない。物見台、櫓、居住スペースがあれば十分である。
- 山城のたのしさ … 散策を楽しむ「5つのキーワード」の提言 〔萩原さちこ先生〕
- ①設計と工夫(地形の利点を活用と欠点のカバー方法)、②地域・地質の違い、③築城者の個性に注目、④役割・目的(桜山城は三原城の詰城)、⑤変遷(城主交代に伴うリフォーム)



みはら おもしろクイズ



(解答は3/11頁の欄外にあります)

三原八幡宮「鳥居の変遷」

小早川隆景公が、三原城築城時、西野から現在地に移したと伝えられる三原八幡宮（旧称西宮八幡宮）の入り口には、高さ約10mの大鳥居があります。昭和47(1972)年の建立ですがこの建立に至るまでの変遷をたどってみました。

1. 三原八幡宮について

(1) 「三原志稿」巻之二 西宮八幡宮の項 の解説

神 殿 一字

永正年中(1504~1521)回祿にかゝり、社記ことごとく焼亡、鎮座の年代不相知。舊殿の臺股の裏に、永正7(1510)年庚午9月20日刻之とあり。宇佐神宮勧請とぞいふ。三原の大氏宮にして、西野村東の方は涌原川限り往古の敷地也。御城堅牢地神の祓いを勤むるも敷地の故なれば也。

(2) 三原八幡宮 宮司さんの手許書類より

備後の劔御調郡三原西八幡宮は、三原庄内七社の第一に位して、当城の西市店の端山林の中に鎮座、東は阿久原河を限り桜山の麓築出を限る。西南は國境、北は村境八坂山を限りて当宮の敷地にして、九月三十日を以て大祭とす。昔 西野村大西谷國広という所に鎮座、**其の鳥居遙か沖海中に有り**と云う。応神天皇淡路島より吉備播磨に巡狩し給いし時、此の所に暫し休らい給い、此所は如何なる所なりやと問わせ給えば、村民奏して吉備國后と安芸國境所と申上げれば、吉備の國も広しと宣う。故其所を國広と名付く。其の休らい跡に村民社殿を建立して奉斎すといふ。後永正二乙丑年二月十三日大内義隆尼子晴久と戦争の砌り、兵火に罹り宮殿宝庫悉く焼失す。

同七庚午年宮殿を再建し更に永禄年中神璽を豊前宇佐宮より奉還、其後天正二甲戌年小早川隆景三原城経営ノ際、同三乙亥年九月当宮を現在の地に遷座して氏神となし西八幡宮と称し社領三百石を寄付す。

其後福島正則領主の時、当城主仙石但馬社領を没収す。爾後氏子中より祭礼等をなす。浅野氏城主となりて御初穂米三年を備ふ。元禄十三庚辰年**旧鳥居の有りし**海辺に新田を経営す。(以下略) (注) 天正二甲戌年は西暦1574年

2. 鳥居の変遷

(1) 前項「三原八幡宮 宮司さんの手許書類」によれば

西野村大西谷國広にあった時代に、遙か沖海中にあったこととなります。

(2) 「三原志稿」巻之二 西宮八幡宮の項 の解説

石華表

銘 備後三原西八幡宮鳥居為摂州大阪小西宗惠祈念建立

延寶戊午年八月日主役里人檜崎忠右衛門正員

(注) 延寶戊午年は西暦1678年

額、唐銅。八幡宮の文字、鳩の形をもて置也

此の華表、往古は社前の海中にありし也。礎石二残りけるを、元禄年中宮沖墾田を御築の時しも、氏沼君乞得て手水鉢と成たまふ。今渡邊君の屋敷にあり。一つは、御城

内の御手水鉢と成させ給ふ。又、中間町にも華表ありし由。今其跡也といへる所あり。

(注) 石製鳥居の建立者 榑崎忠右衛門正員について

「三原志稿」巻之五 人物の項 の解説

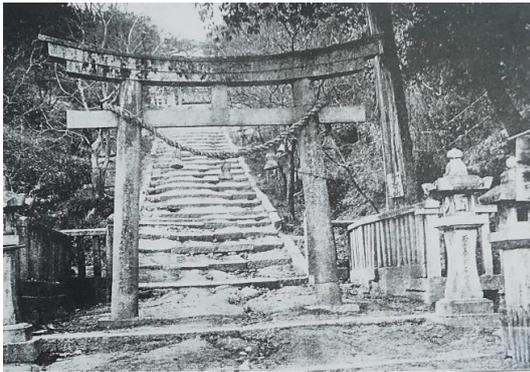
歳36初めて書を読み、延寶元癸丑午54歳にて……

正員西宮八幡宮の華表を建立す。其旨趣は大坂小西氏に菓種代滞あり、夫を拂わん事を申遺せしに、うけかわす、雙方其譲り相止ます、其銀を以て建立す。

(3) コンクリート製の大鳥居

昭和45(1970)年12月03日午前8時ころ、前項の石製鳥居が大音響とともに北側に倒れました。境内の一部が県から急傾斜崩壊危険地区に指定された為、その対策工事中の出来事で、工事による振動の影響かとみられています。

昭和47(1972)年10月、当時の対策工事を担当した建設会社が、石製鳥居のおよそ2倍の寸法となるコンクリート製大鳥居を建立し、現在に至っています。



〔明治末頃撮影の石製鳥居…三原志稿〕



〔同上の倒壊残骸…金網の中 2016.11.23 撮影 〕



〔2016.11.23 撮影の 〕コンクリート製大鳥居〕

三原七社 というのは??

「三原志稿」巻之二 には、以下の記述があります。

西宮八幡宮 西町。加羅加波神社 山中村。平家八幡宮 同。糸崎八幡宮 東野村。

十二所権現社 東町。巖島稻荷明神社 西野畑山。詰社太王社 西野村。

おもしろクイズ

三原八幡宮のコンクリート製大鳥居は、石華表といわれる石製の鳥居が倒壊したために製作されたものです。

このコンクリート製大鳥居の大きさを、倒壊した石華表にくらべると？
(ヒントは本文に記載されています)

(ア) 殆ど同じ寸法 (イ) およそ2倍に拡大 (ウ) 多少小さくなった



三原のお祭り



八幡の火祭り

「みはら玉手箱 平成25(2013)年9月第5号」で御調八幡宮の秋季例祭を紹介しました。今回の第18号では八幡の火祭り神事を紹介します。今年7月30日(土)でした。



〔茅の輪のある拝殿前〕

＜戦没者慰霊祭＞

午後5時30分から戦没者（氏子）の御英霊をお慰めし、平和を祈ります。そのあと直会をします。

＜火祭り神事＞

午後7時から火祭り神事の始まりです。

1. 茅の輪

境内には前日までに氏子達が刈ってきた茅で、茅の輪が作成されていました。

人間生きていれば知らないうちに、様々な埃のような罪・穢れが積もります。この茅の輪をくぐって半年の間積もった罪・穢れを祓ってから神様に参拝するものです。

2. 湯立て神事

大釜で沸かしたお湯に笹竹を浸し、宮司さんがお祓いをされるなか、参拝者は笹の飛沫を受け無病息災を願います。二重・三重に参拝者の前を回ってお祓いをされていました。

3. 祈祷木焼納

氏子や参拝者が祈祷木（一般的には檜を使用）に名前・年齢・願い事（無病息災・家内安全など）を書きます。二箇所を設置された篝火台（神聖な火）を回り祈祷しながら、この祈祷木を焼納します。

こうして半年の罪・穢れを祓うことにより、願いが叶うよう祈ります。



〔祈祷木を燃やす参拝者〕

＜協賛行事＞

町内の人達が、神楽殿の前に組まれた櫓のまわりで行います。「八幡八景音頭」や「八幡の火祭り踊り」など、昔懐かしい所作の踊りなども披露されました。

八幡八景音頭は30年くらい前に、氏子のある方が歌詞を作られ、プロの作曲家の作曲、テイクレコードの歌手の歌で藤間流の振り付けだそうです。



《八幡八景音頭》

八幡八景	西野吉野と名に高き 御調八幡は花の宮 春は桜の薄す霞 秋は紅葉の濃い錦
鈴谷黄鳥	昼なお暗き鈴が谷 春も弥生の頃来れば 桜つつじの花盛り 鳴くやうぐいす声のどか
竜王峯紅葉	八幡の宮の奥の院 龍王峯にと立ちこむる 紅き霞ぞ七重八重 御苑の池の水清し
虚空蔵峯眺望	伊予の島々うち霞 真帆に片帆に往き帰る 瀬戸の内海まのあたり 眺めいと良き虚空蔵
彭祖瀑布避暑	仙人すらも訪れぬ 深山がくれの彭祖瀑 落つる白糸清くして 夏の暑さぞ忘らるる
鷹羽山晴嵐	安芸と備後の二ヶ国に 跨がり立てる鷹羽山 夕日の陰も黄金にて 松の嵐の音清く
鉾峯秋月	千草八千草花盛り 誰を待つ虫音に鳴くか ぬ鉾が峯に雲晴れて 光さやけき秋の月
御調坂夜雨	木の葉散り敷く御調坂 綾目も分けぬ闇の夜を 雨に濡れつつ越え行けば 只谷川の音ぞ聞く
障子嶽暮雪	雲の上までそそり立つ 障子嶽の白雪に 夕日の影の照りそいて 光異なる眺めかな
結語	花の社にましまして 氏子の繁盛を祈ります 八幡の宮の御遺徳は 千代の変わらじ八千代まで

《御調八幡宮縁起》

「備後国総鎮護“御調八幡宮”」は、三原市の竜王山を水源とする八幡川が流れる仏通寺・御調八幡宮県立自然公園に属しています。

古代史を揺るがした「道鏡神託事件」神護景雲3(769)年の、託宣を受けに行ったのが和氣清麻呂(733-799)です。

道鏡を深く寵愛したと言われる孝謙天皇の女官広虫は孝謙女帝が退位したとき、法均尼となり上皇となった女帝を支えます。その後再び称徳天皇となった女帝は、八幡大神が夢で「申しあげたいことがあるので法均尼をよこしてほしい」と言われたといひます。広虫をよこせと言うことだったのでありますが、女性の足では無理と判断し、清麻呂に神教を聞くように命じました。結局この神託事件によって、和氣広虫・清麻呂姉弟は失脚します。

広虫は備後国へ、清麻呂は大隅国へと配流されました。この御調八幡宮は、広虫が流謫の身で日々齋戒沐浴、円鏡をご神体として宇佐八幡大神より勧請して清麻呂の冤罪が晴れることを祈願したのが創始とされています。

広虫は備後国へ、清麻呂は大隅国へと配流されました。この御調八幡宮は、広虫が流謫の身で日々齋戒沐浴、円鏡をご神体として宇佐八幡大神より勧請して清麻呂の冤罪が晴れることを祈願したのが創始とされています。

宝龜8(777)年、藤原百川氏がこの地に使いを派遣して社殿を造営、封戸を割いて社領にあてたとあり、これを社殿の創建としています。

現在の社殿は、ことごとく江戸時代浅野家による再建ですが、古くは元暦元(1184)年、源頼朝により再建されその後、土肥重平によって文治年間(1185~90)に重修されています。また、観応年間(1350~52)には足利尊氏による社殿造営と伝えられ幾時代にも亘って、時の権力者の庇護を受けてきた由緒正しい神社です。

石碑が語る三原の歴史

神護景雲3(769)年に和氣清麻呂が直諫の罪により大隅国に流された時、姉法均尼は備後国に配流となり、三原郷から御調坂を通り八幡に入りました。ここで宇佐八幡大神を勧請して、弟清麻呂の赦免を祈願し、宝亀8(777)年に藤原百川が使いを派遣して社殿を造営し、御調八幡宮を創建しました。古代の山陽道は地方の主要拠点となっていた八幡を通ったといわれています。

今回はこの御調八幡宮境内の顕彰碑、詩碑および古代山陽道の道標について紹介します。

道標



西 東
 ぶつ津うじ 府中 久三良
 ふちゅう

高さ 100cm
 幅 56cm
 奥行 23cm

[三道祖の石道標]

古代山陽道は、備後国分寺から真良駅までは、府中から父石、宇津戸、久井を通して真良に至っていたというのが通説になっていました。これは途中にあったといわれる者度駅いっとを現在の宇津戸と解釈したからです。しかし、古代山陽道は都から九州大宰府への緊急連絡道として設けられたもので、宇津戸経由で大回りをするのはおかしいと疑問視されていました。者度を市と解釈し、現在の御調町、八幡町を通ったと考えると相当な近道となり、現在はこれが古代山陽道であったろうといわれています。

「三道祖の石道標」は久井、八幡、高坂への古道の三叉路に建っています。表面の文字は風化して判読が困難になっていますが、「東 ふちゅう（府中）」「西 ぶつ津うじ（佛通寺）」「府中 久三良（久三郎）」と読み、東 市（御調町）経由府中、西 三道祖経由佛通寺への道が主要な道路であった証になります。

道標の建てられた時期は不明ですが、江戸期以降に府中の商人久三郎が建てたといわれています。

「差出帳」に書かれている三道祖から佛通寺に通じる谷の細い道を古代山陽道と考え、「みはら歴史と観光の会」が草刈整備をした際、中間位置にも上記と同じ道標を発見し、古代山陽道との確信を得たそうです。

記念碑



[田中満眞顕彰碑]



[田中家墓地]

御調八幡宮の境内に「田中満眞顕彰碑」があります。高さ172cm、幅78cm、奥行25cmの大きい石碑本体に三重の立派な台座の付いた見事なものです。

田中家は先祖が渋川氏の家臣であったといわれ、代々割庄屋を務めた旧家です。古文書の勉強で、しばしば田中家文書がテキストに使用されます。

田中満眞については「御調郡誌」に詳しく紹介されていますが、その概要を述べます。

嘉永元(1848)年生まれで、父は清七郎といい、幼名は孫四郎とっていました。明治5(1872)年に戸長副を命じられ、翌年に戸長となり、明治7年学区取締補助員兼務、明治11年に御調郡書記に任じられました。明治14年に御調郡長心得に、翌明治15年には御調世羅郡書記に、明治17年に広島県収税属、明治21年に農商課長に任じられ、明治25年に豊田郡長に任じられました。爾来累進し、正七位勲六等になり、明治33年11月には高田郡長になりましたが、翌明治34(1901)年に死去しました。

土地の人はこの業績を称え、御調八幡宮境内に立派な顕彰碑を明治45(1912)年に建てました。また、田中満眞の大きな功績として、商船学校を大崎上島へ誘致するのに尽力したのが伝えられています。この学校は現在日本に5校しかない商船高等専門学校の1校で広島商船高等専門学校として、文教の町大崎上島町の中核となっています。

田中家の屋敷跡は、現在御調八幡宮の駐車場になっていますが、少し離れた場所に田中家の墓地があります。墓地内に立派な宝篋印塔があり、武家から転じ、代々割庄屋を務めた旧家の墓地の風格が感じられます。子孫の方は尾道市に移られました。

句碑・詩碑



[頼山陽文学碑]

法燈何独照千春
阿弟擎天挽
日輪不似李家婦
異姓卻由煮粥
焚鬚人

[頼山陽文学碑の詩 主文]

御調八幡宮境内の神宮寺跡に「頼山陽文学碑」があります。これは頼山陽が菅茶山を見舞った帰りに、御調八幡宮に参拝した時、詠んだ詩を刻んだものです。

石碑は高さ324cm、幅188cm、奥行33cmで、台座を含めると378cmにもなる立派なものです。昭和49（1974）年に御調八幡宮氏子総代会、三原市郷土史研究会、旭町青年団旭光会、三原市郷土を愛する会の有志により建立されました。

裏面には協力者の名前が彫られていますが、監修者に頼家の子孫の頼桃三郎先生の名が見られます。

題字「頼山陽文学碑」は時の奥野誠亮文部大臣が書かれ、詩文は頼山陽直筆を拡大したものです。

この石碑には高さ63cm、幅72cm、奥行9cmの副碑が建てられていて、詩文の読み下し文を書家の文学博士田中塊堂氏が書かれています。彫られている読み下し文は次のとおりです。

「法燈何ぞ独り千春を照らすのみならん 阿弟は天を擎げて日輪を挽く、
似ず李家宗社の覆るは、却って粥を煮て髪を炊くの人に由る

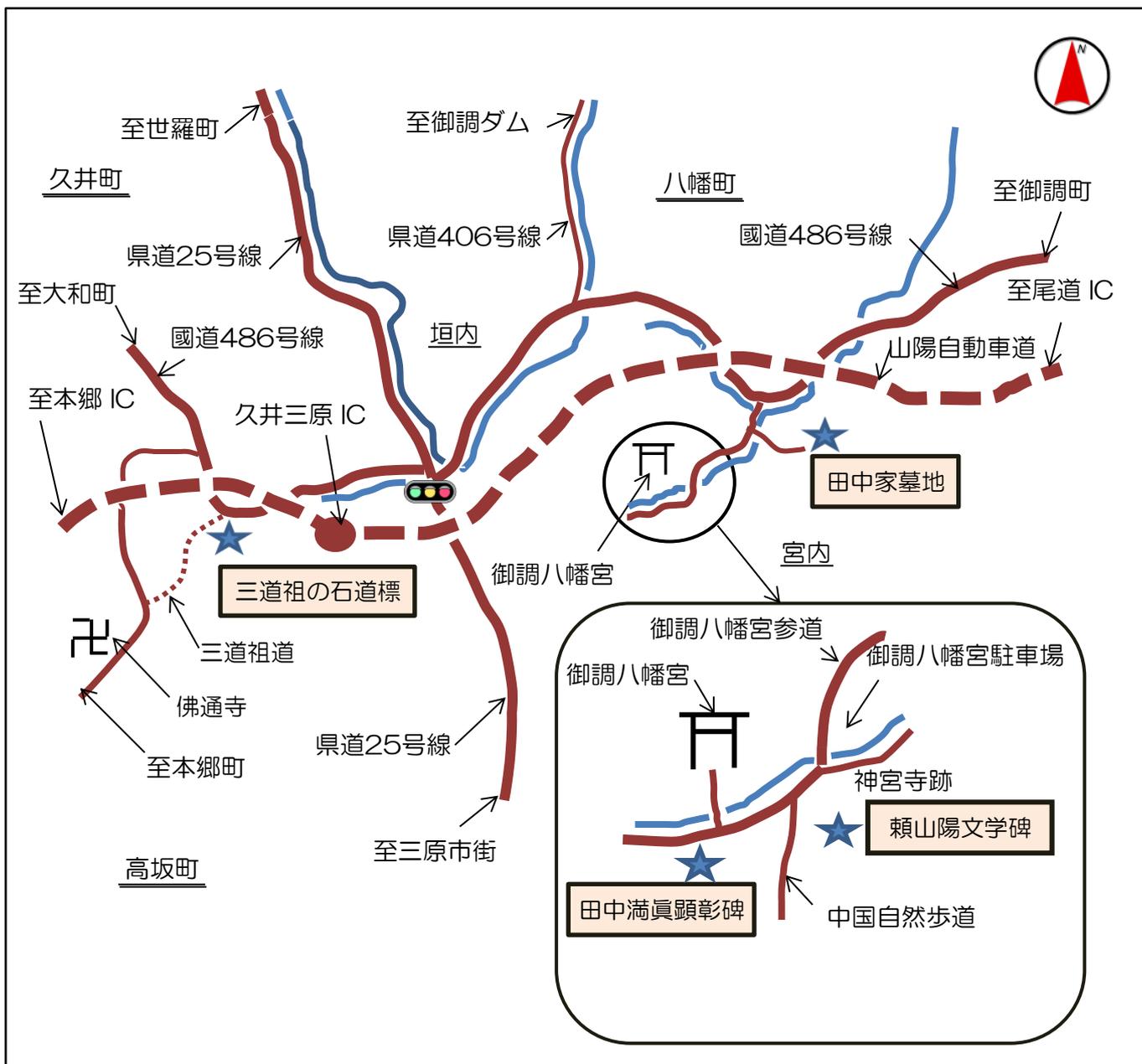
八幡山神宮寺八景之勝有遍く題詠を請うて余に至る余特に全寺勝跡の
最も大なる者を詠じ以て責を塞く

山陽外史 頼 襄」

先年、頼山陽の研究者見延典子先生が来三し、頼山陽について講演をされましたが、事前に御調八幡宮に参拝されてこの碑を調べられ、講演会で話題にされました。

石碑の横の副碑に刻まれている読み下し文だけでは未だ難解です。見延先生のお話によると、頼桃三郎先生のご息女、比治山大学の進藤多万先生が「和氣清麻呂・広蟲姉弟は、道鏡の陰謀を未然に防ぎ、天皇家の存続に尽力した。同じ様な李勣姉弟の話が中国に残っているが、似ていない。中国は、唐や明といった王朝ごとに皇帝が代わる。一方日本は、脈々と天皇家が続いている。」と現代文に解説しておられるとのことで、さすがだと感心しました。

概略マップ





三原にある狛犬



今回は、大和地区の狛犬を紹介します。（神社の由緒説明文は広島県神社誌による）

40. 田中神社（通称 田中八幡宮）

三原市大和町平坂2239

往古は国府の祭祀と伝えられています。『芸藩通志』には八幡宮として文安6(1449)年3月の勧請と記されていますが、平安末期と推定される楽音寺蔵の「安芸国神名帳」に豊田郡四位六前として田中明神があり、相殿神の市岐島姫命をはじめとする宗像三女神に比定されています。従って文安6年は新たに八幡宮を勧請して田中明神を合祀した年代と考えられます。

（狛犬は玉乗り型ですが、鈴玉に乗っており、その綱をくわえているのが特徴です）



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	85	32	69
吽形	88	30	68
年代	昭和8(1933)年3月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型（鈴玉）		



41. 氏八幡神社

三原市大和町和木字王子原1118

創祀年代不詳。天正5(1577)年9月、藤原朝臣井上亦右衛門尉春忠(永禄4年・1561年の頃本郷高山城筆頭家老)を大旦那とする本殿造立の棟札写を伝えます。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	98	36	68
吽形	98	38	67
年代	大正12(1923)年10月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



42. 棕梨八幡神社

三原市大和町棕梨2365

天文24(1555)年、小早川棕梨弘平が棕梨夏焼に上草井・下草井・棕梨・大具・小田の5ヶ村の総鎮守として1社を建立し、その後氏子論争で火災となり焼失しました。その時氏子は競って神体神器を奪い合い、各村別に八幡宮を奉祀したと伝えられています。『芸藩通志』によると「八幡宮、棕梨村にあり、寛文癸卯3(1663)年再造の棟札に天文24年乙卯 小早川弘平建とあり」と記されています。



	(単位：cm)		
	高さ	幅	奥行
阿形	99	40	80
吽形	102	43	80
年代	平成8(1996)年5月		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



42-2. 棕梨八幡神社の末社 巖島神社（宗像三女神）



〔巖島神社 吽型〕

		(単位：cm)	
阿形	高さ	幅	奥行
吽形	64	23	46
年代	64	23	46
不明	不明		
石工	不明		
石材	花崗岩		
型	玉乗り型		



〔巖島神社 阿型〕

＜補足写真＞

田中神社の狛犬について、像全体は、以下の通りです。



〔吽型全体〕



〔阿型全体〕